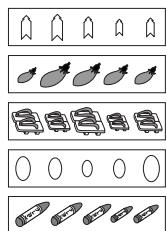


<指導上のポイント>

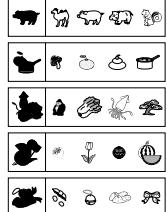
<例題1> (1~4ページ)

「一番大きなもの」「一番小さなものの」はわかりやすいのですが、「2番目は?」という問題は難しいです。全体を同時に視野に入れるようにして、一番のものを意識しながら、一番のものがなければ一番になるものを探します。つまり、消去法を用いて判断するのです。



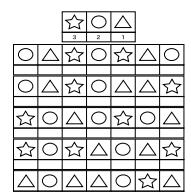
<例題2> (5~8ページ)

影絵を見つけるのですが、確実に違うものは除外・消去して、これまた全体的に見ながら判断します。間違った判断をする人間に「視野が狭いね」などと言いますが、これは全体的に見ない人のことを言うのです。



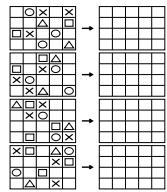
<例題3> (9~12ページ)

左上から順番に、形を数字に置換していく問題です。とばして同じ形ばかりを数字に直してはいけません。上をいつまでも見続けながら作業をすればよいのですが、形と数字を関連付けることができれば作業は早くなります。



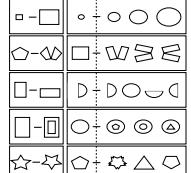
<例題4> (13~16ページ)

「平面位置」問題と名付けている、簡単ですがとても大切な能力をチェックして育てる問題です。この問題を間違うようでしたら、高い能力を育てることは無理です。この問題ができるようにトレーニングをさせてください。



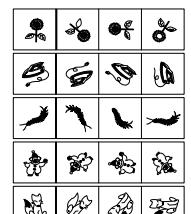
<例題5> (17~20ページ)

この種の問題は、答えあわせをする時に、なぜそれを答えとしたかを聞いてください。考えを言語化することによって思考力が高まります。



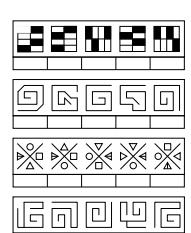
<例題6> (21~26ページ)

一つ一つ対応させながら答えを見つける方法では、判断能力は高まりません。何度も言いますが、全体を同時に見る・把握するようにして、相違点・共通点を感じて判断するのです。そうすれば、答えが自然にわかるようになります。



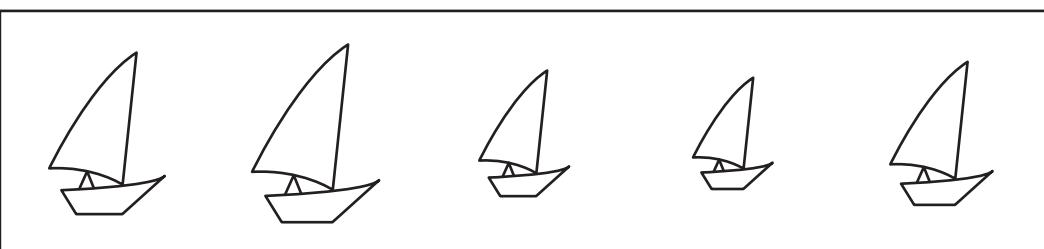
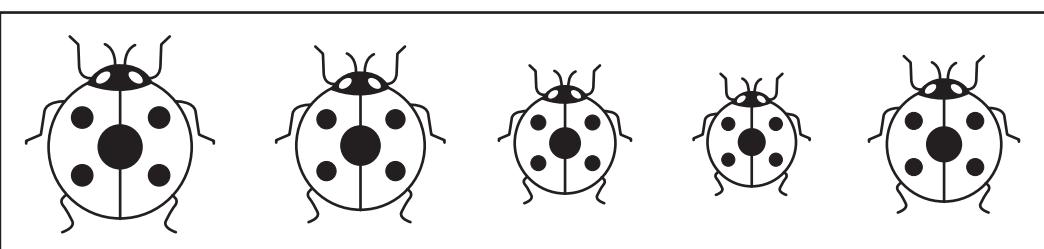
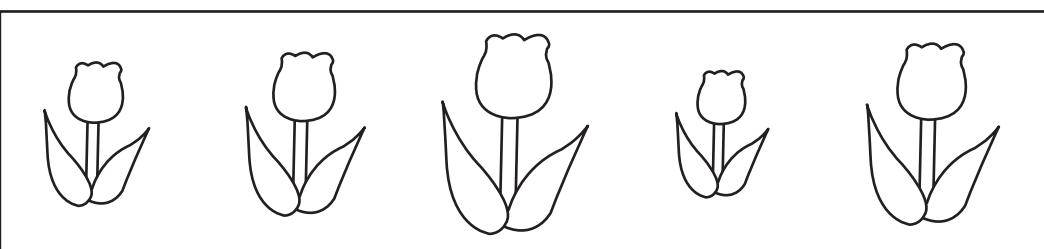
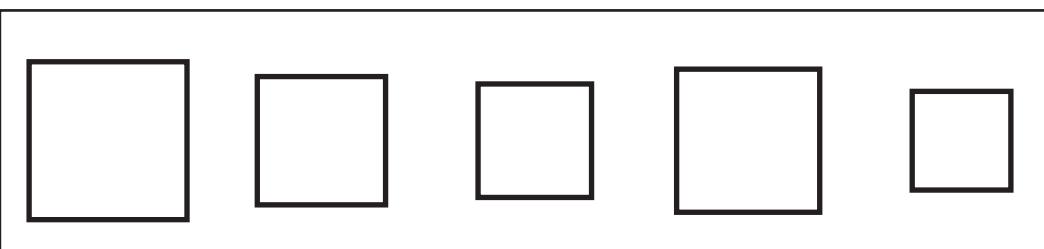
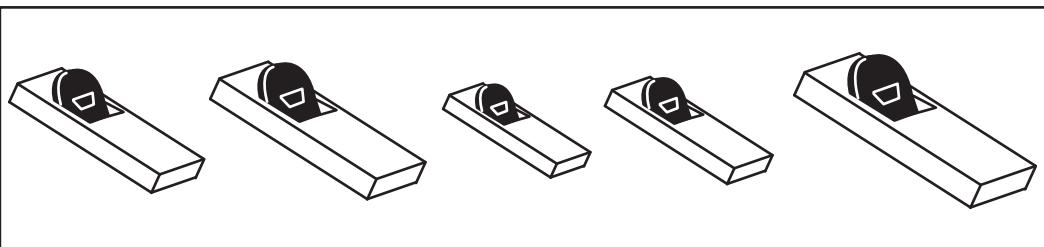
<例題7> (27, 28ページ)

大人でも答えるのが難しい同類図形発見問題です。一つしかない形を発見して、それを消去して判断するものを減らしていく、少なくなった残りのものを同時に見て、違いを感じるようにします。広い視野の獲得、つまり、全体把握能力の獲得が、早く判断力につながります。



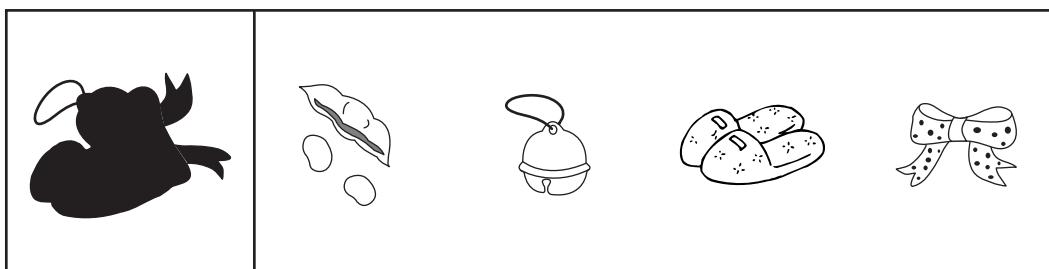
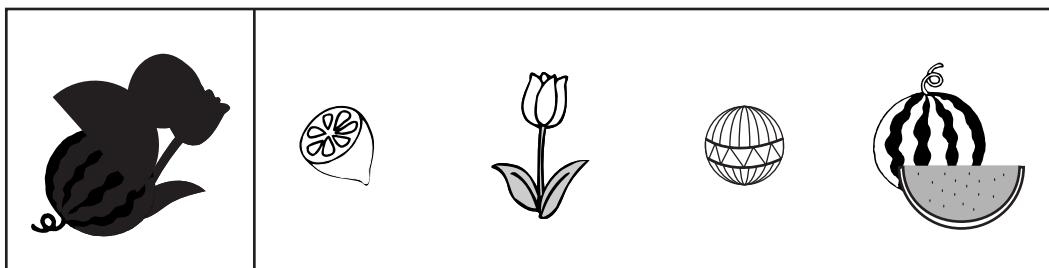
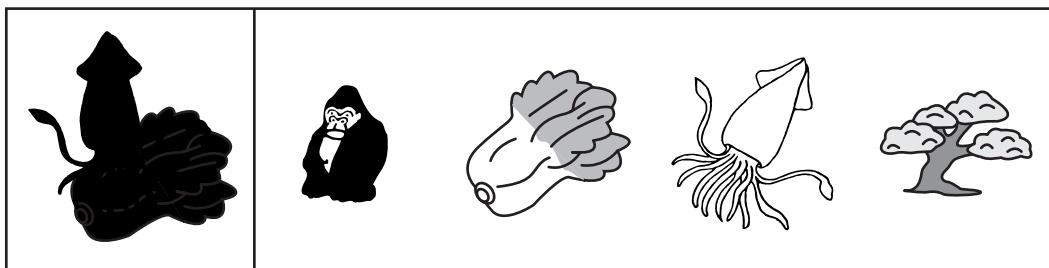
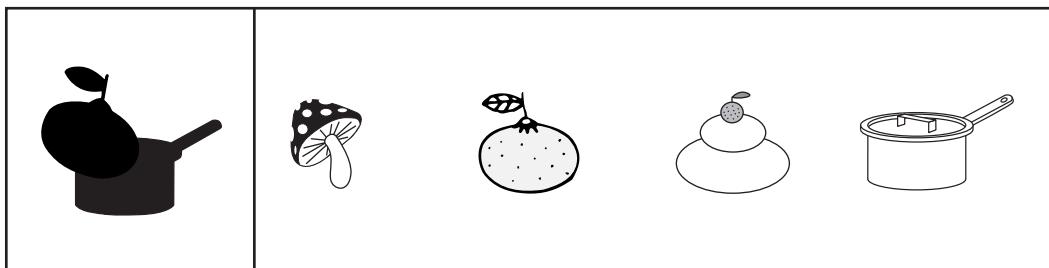
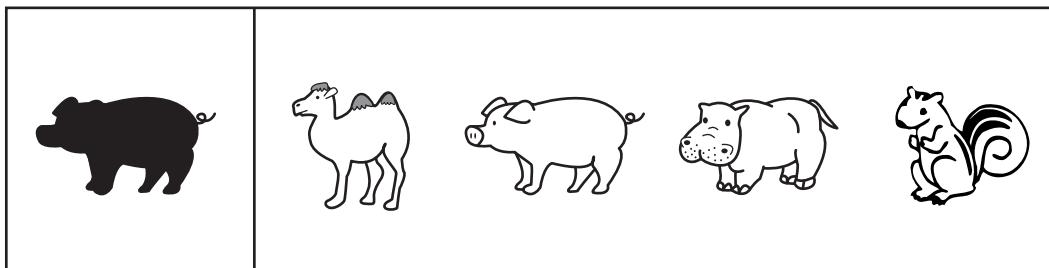
例題 1

2ばんめに大きいものに○、2ばんめに小さいものに×をつけなさい。



(例題2) の類題 1

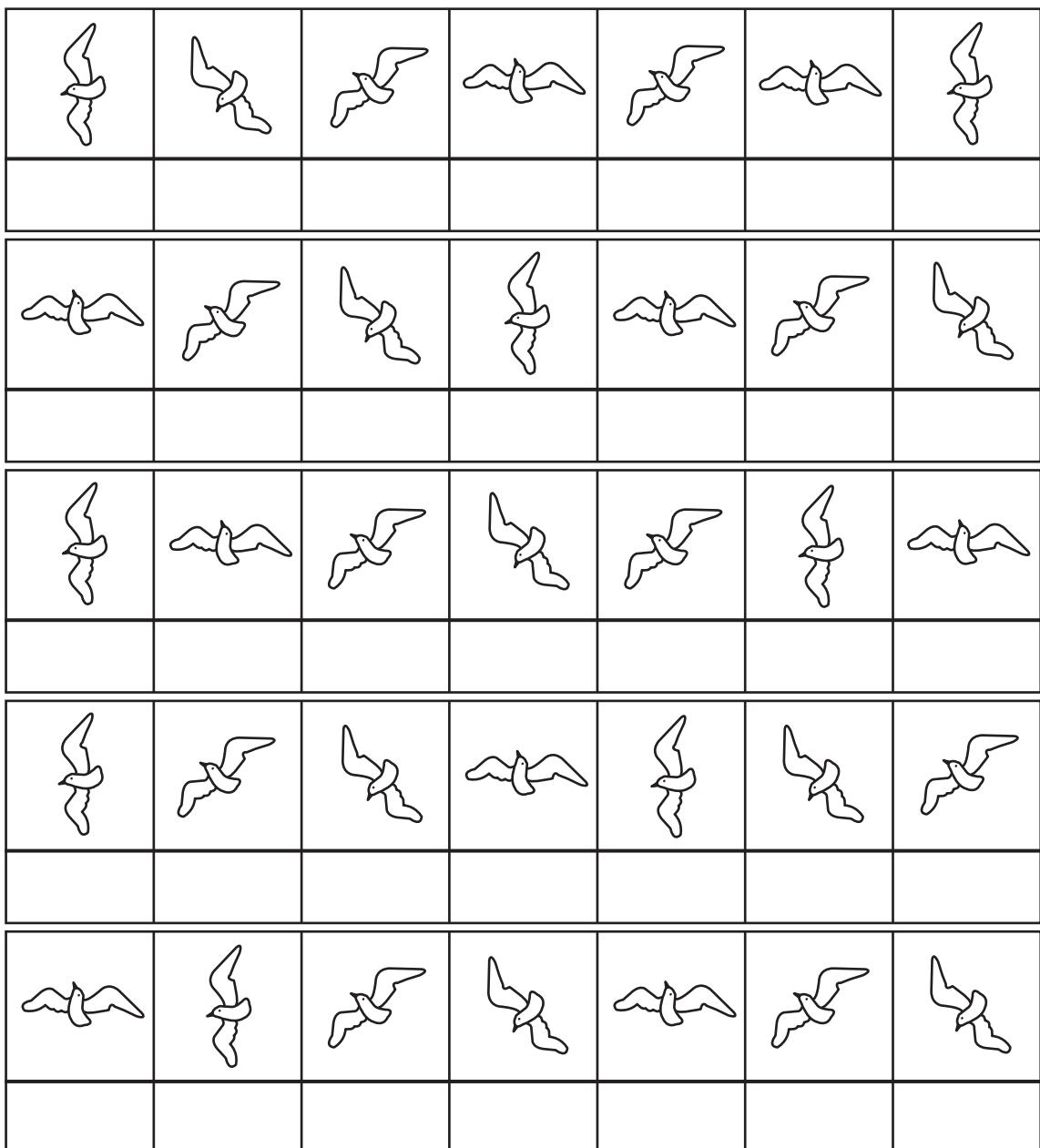
左はしのかけえは、右のどのかけえですか？見つけて○をしてください。
二つ以上重なっているものもあります。



(例題3)の類題 2

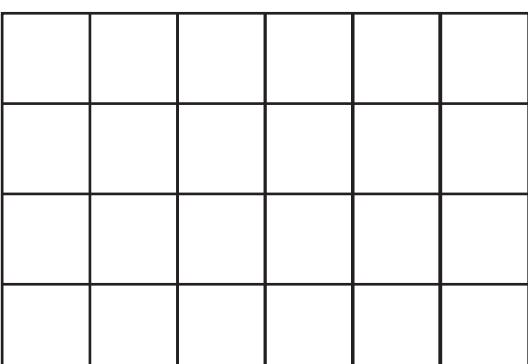
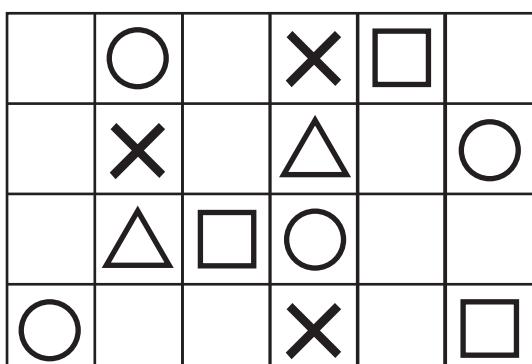
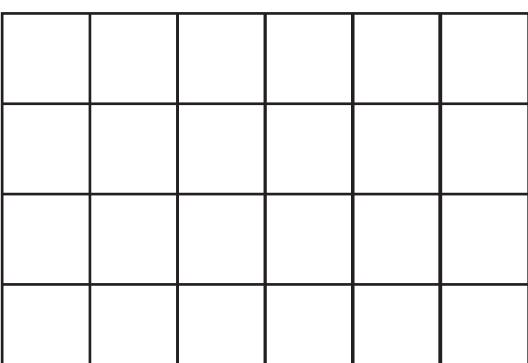
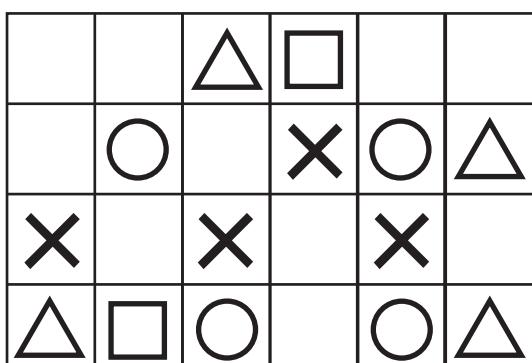
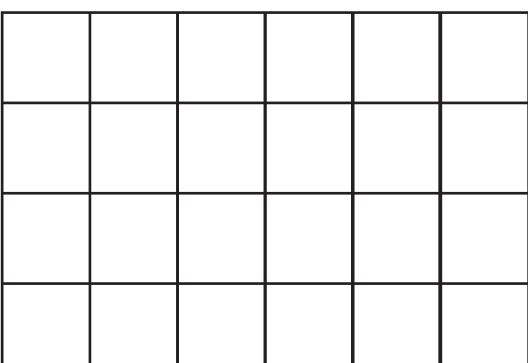
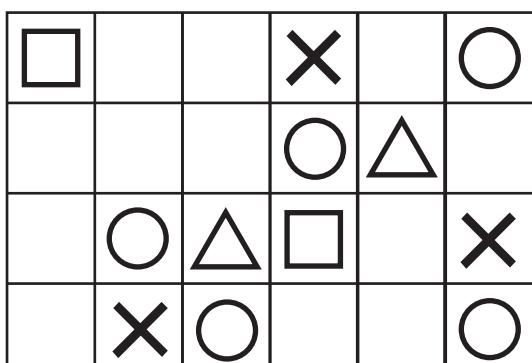
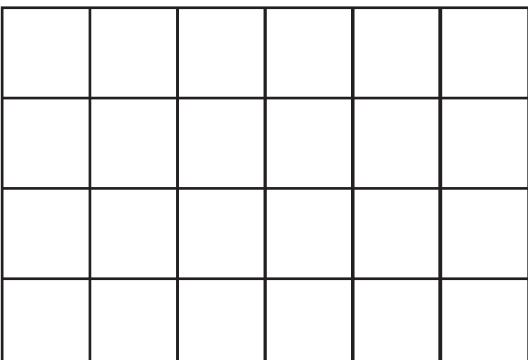
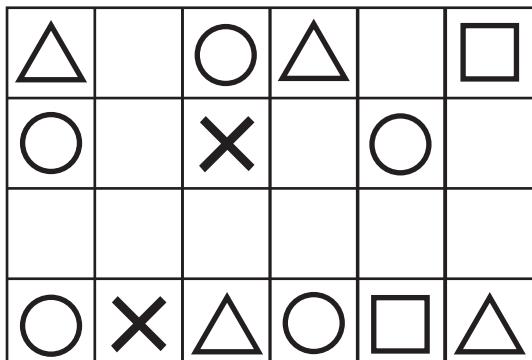
やくそくにしたがって、数字を書きましょう。

			
4	2	5	3



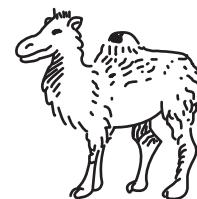
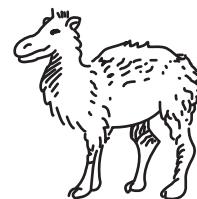
(例題4)の類題 3

左のお手本どおりに、右に形をかきうつしなさい。



例題 6

左はしの絵と同じ絵を右からみつけて、○をつけなさい。



(例題 6) の類題 5

左はしのかたちと、おなじかたちを右からみつけて、○をつけなさい。

